

まちの話題



子どもの森を完成させようDAY

「十曾こどもの森」は、子どもや大人がさまざまな自然体験活動を通して、地元への愛着・自然と共に生きる素晴らしさを感じ、学ぶ場所として活用されます。

来年度の開設にむけて、3月18日には、自然体験活動と市民参加型建設の仕上げが、プレオープンイベントとして、盛大に開催されました。

森の中から響くマリンバ（打楽器）とジャンベ（太鼓）の生演奏をBGMに、会場のさまざまなフィールドで、まさに“村づくり空間”が誕生しました。

4月には、屋内にピザ窯とかまどを常設した藁と土の家（ストローベイルハウス）、星を眺める五右衛門風呂（3基）、円形の菜園及び菜園コロニー（休憩所）がオープンします。

未来を担う子どもたちから預かっている自然を大切に、“教える”施設ではなく、“自ら学べる”施設が誕生しました。利用する人が、心おおらかに自然生活の場を共有し、交流することで“互いが育ちあう”素敵な場所になりそうです。

郷土の思いをタスキにつなぐ



1月29日に霧島市で地区対抗女子駅伝競走大会が、また、2月25日からの5日間は、県下一周駅伝競走大会が行われました。

選手は、この日のために一年間練習を重ね、郷土の思いをタスキにのせレースに参加し、沿道からの声援に背中を押され精一杯の走りを見せてくれました。

3月3日の解団式では、監督から「この悔しさを持ち続け練習に取り組む」と来年に向けた決意が語られました。

来年に期待し、みんなで応援しましょう。

薬師牛舞（ヤクシウッベ）奉納



3月4日、菱刈田中の薬師にある松原神社で、豊作祈願の薬師牛舞奉納がありました。

薬師牛舞は、1,350年後半から伝わる農耕劇で、参道から老人と牛そして昼ごはんを待って奥さんが登場、終始笑いのたえない奉納劇が行われました。

来年も3月上旬に行われる予定です。ぜひ、皆さんもご覧ください。おもしろかったですよ!!

春を告げる風物詩 “伊佐市春の市”



春の恒例イベント「伊佐市春の市」が、3月10、11日に開催されました。好天に恵まれた2日間でしたが、強風で体感温度は低く、春はまだ遠く感じられました。

大口商店街一帯が歩行者天国になり、フリーマーケットや植木・農具・飲食物・衣類・金物荒物・雑貨などの露天が立ち並び、地元商店と合わせると220店舗ほどが軒を連ね、市内外から多くのお客様が訪れました。

また、一年前、東日本大震災が発生した11日の午後2時46分には、来場者が手をつないで黙とうし、犠牲者の鎮魂と復興への祈りを捧げました。

企業立地協定に調印



3月12日、市は、株式会社大国ファームと立地協定を結びました。県の担当者立会いのもと大国フーズの津田代表取締役（中央）と、市長が協定書に調印しました。

同社は、大阪府富田林市において、耕作放棄地を活用した無農薬・有機肥料による野菜などの栽培を実践しています。

今回の進出は、富田林市と気候条件の違う伊佐市に農地を確保し、多品目の野菜を通年で安定供給できる拠点をつくるためです。

この立地協定により、地域資源を活用した新事業と雇用が生まれ、地域の活性化が期待されます。

安全きれいな河川づくり



平成 23 年度河川愛護団体の表彰状伝達式が、3 月 13 日に伊佐市役所で行われました。

今回、表彰された白木自治会は、川とのつながりの中で地域の活性化や美化活動を行っており、河川愛護運動に特に貢献したと認められ、知事表彰を授与されました。

河川愛護運動を推進する各団体の活動は、地域の環境美化にとどまらず、元気に地域づくりにつながるものです。

市民の皆さんも環境美化活動へのご協力をお願いします。

「子ども見守りカメラ」



2 月 15 日、山野小学校近くの交差点に、同地区防犯パトロール隊（青パト隊）によって、「子ども見守りカメラ」が設置されました。

同交差点では、青パト隊の一員だった江崎光守さんが、2 年余り立ち続け、子どもたちを見守ってきましたが、昨年、78 歳で急逝されました。

高齢化で代わりに務める人がいない同校区では、江崎さんの意思を継ぎ、防犯意識を高めるためにも、カメラの設置を決め、子どもたちが登下校する時間に稼働させています。

地域のより安全な環境づくりに役立つことでしょう。

合同防災訓練



3 月 9 日、伊佐市と人吉市境にある国道 267 号久七トンネル（3,945 メートル）で、鹿児島・熊本両県関係者参加のもと、消火・救出訓練が行われました。

大型バスと乗用車が正面衝突し、火災発生・けが人多数という設定で発炎筒が焚かれ、緊迫した中で行われた訓練では、防災ヘリも両県から出動し、大塚トンネルとの間では、吊り上げ訓練も実施されました。

開通以来、このトンネルでの事故は発生していないとのことですが、訓練だけで終わってほしいものです。

青年海外協力隊体験報告



2 月 24 日、アフリカ・ウガンダで 2 年間、青年海外協力隊として活動した坂元紫乃さん（大口針持）が、針持青少年センターと針持小学校で報告会を行いました。

会場に集った、地元自治会員や針持小の児童たちは、“村落開発普及委員”として生活指導にあたった現地での貴重な体験談に、興味深く、真剣な表情で聞き入っていました。